

海上自衛隊仕様書			
物品番号等		仕様書番号	MGP-S-00185-3
名称	パーツブック作成共通仕様書	長官承認年月日	
		作成年月日	S 48. 8. 4
		改正年月日	H 2. 10. 1
		単位	
		海上幕僚監部装備部艦船課	

1 適用範囲 この仕様書は、海上自衛隊が使用するために建造する艦船等の完成図書用パーツブックの作成について適用する。

2 構成及び編集

2.1 構成 パーツブックは、次のもので構成する。

- a) 表紙 おもて表紙、裏表紙及び背表紙からなる。
- b) 分冊目次 図面の分類ごとの分冊内容をしめしたもの。
- c) 扉 各冊の最初に編集する表題等を記載したもの。
- d) 改訂記録表 就役後改造等で変更になった事項を記録するもの。
- e) 解説 パーツブックの使用方法を記載したもの。
- f) 目次 各冊の図面等の目次で一般用、及び分類図を使用するもの用がある。
- g) 部品表 図面と同じ紙面に記載するものと別用紙に記載するものに分かれる。
- h) 図面 機器等を、平面的、立体的図法で表したもので、分類図、装置全体図、組立図及び分解図がある。
- i) 要目表 主機等重要搭載機器の要目を記載したもの。
- j) 部品番号順索引 部品が多数ある場合に設けるもので部品を部品番号順に一覧表としたもの。
- k) 共通部品表 既に納入された機器と同一型式であって、一部設計変更等がなされた場合などに互換性等の把握のために設けるもので、共通部品を部品番号順に一覧表とし各艦艇の共通を表したもの。
- l) 取りまとめ表 同様の小型機器部品をまとめて一覧表としたもの。取りまとめる機器等の範囲は付表1による。
- m) 機器識別番号順一覧表 機器識別番号を付与した親機器が、多数ある場合に設けるもので、機器識別番号順に一覧表としたもの。
- n) 識別用紙 編集した図面の検索が容易なように識別するもの。

2.2 図面の区分 図面は、官給品を含め次の各部に区分する。

なお、記載なきものはこれに準ずる。

- a) 船体部

b) 機関部

- 1) 主機 (減速装置, 電装品等を含む。)
 - 1.1) ガスタービン機関 (型式ごとに区分する。)
 - 1.2) ディーゼル機関 (型式ごとに区分する。)
 - 1.3) 蒸気タービン機関
- 2) 主ボイラ
- 3) 原動機 (電装品等を含む。)
 - 3.1) 主発電機用 (型式ごとに区分する。)
 - 3.2) 非常発電機用 (型式ごとに区分する。)
 - 3.3) 補助発電機用 (型式ごとに区分する。)
 - 3.4) 掃海発電機用 (型式ごとに区分する。)
- 4) その他

c) 電気部

- 1) 潜水艦用主電動機 (主制御盤を含む。)
- 2) 潜水艦用主発電機
- 3) 磁気掃海電源装置
- 4) 推進用電動機 (制御装置を含む。)
- 5) その他

d) 武器部

2.3 編集順序 編集の順序は、次による。

- a) おもて表紙
- b) 分冊目次 (おもて表紙の見返しに貼る。)
- c) 扉
- d) 改訂記録表
- e) 解説
- f) 要目表 (必要なもののみ編集する。)
- g) 目次
- h) 図面及び部品表
 - 1) 船舶設計基準細則“水上艦船, 潜水艦”の“重量区分及び内訳”の順を原則とし、ページ数として右上隅に1から始まる一貫番号を付与する。この場合、官給機器の図面もすべて含めること。ただし、前項2.2c)電気部5), その他の編集順序は付表2による。
 - 2) 部品表が、図面と別用紙の場合には、当該図面の前ページに編集する。
 - 3) 分類図を使用するものは、目次の次に分類図 (付図17参照)を編集し、以降分類番号のアルファベット順に編集するものとする。機関部の分類記載順序は、付表3による。
なお、適宜識別用紙を使用して検索が容易なようにする。

- 4) 分類図を使用しないものは、各装置別に全構成機器を表した装置全体図（付図18参照）を最初に編集し、順次構成機器図等を編集する。

なお、装置全体図を必要とするものは、官（補本）が指示する。

i) 取りまとめ表

- 1) 取りまとめ表に記載する部品等の順序は、特に定めない。
- 2) 取りまとめ表を編集する前のページに、識別用紙を挿入する。

j) 部品番号順索引（及び共通部品表）

前のページに識別用紙を挿入する。

k) 機器識別番号順一覧表

- 1) 前のページに識別用紙を挿入する。
- 2) 扉に記載する区分のものは除いて差し支えない。

l) 裏表紙

3 様式等

3.1 一般

- a) 大きさ パーツブックの大きさは、JIS P 0138（紙加工仕上寸法）のA列4番たて長とし、各冊の厚さは60mm以内とする。これを超える場合は官側と協議する。また、図面の大きさは、たての長さを297mm、横を210mm～1,050mmとする。
- b) とじ方 とじ方は、左とじ4穴ルーズリーフ式とし、止金は黄銅又はステンレス製ネジφ5を使用する。
- c) 紙質等 表紙は厚さ約1mmの厚紙を黒ビニルで覆ったものとする。扉及び識別用紙は上質紙とする。ただし、個々に指定するものはこの限りでない。
- d) 字体 個々に指定するもののほか、原則として明朝体とするが、これに準ずるワープロ文字でも差し支えない。

3.2 表紙 表紙の体裁、記入要領等は、付図1～4による。

なお、記入する文字は全てゴシック体を用い、“金箔押”とする。

3.3 分冊目次 分冊目次の記入要領は、付図5による。

3.4 扉 扉の記入要領は、付図6による。

3.5 改訂記録表 改訂記録表の様式は、付図7による。

3.6 解説 標題を“パーツブック使用法”とし、記載項目等は附表4による。

3.7 目次 目次の様式及び記入要領は、付図8によるほか次による。

- a) 用紙の大きさはA列4番とする。
- b) 目次の品名は、品目転位しないで記入する。
- c) 目次のみのページ数を右上隅に記入する。
- d) 2枚以上になる場合は、2枚目以降に表題“目次”は記入しない。

3.8 分類図 全体図及び断面図の目次に記入された分類番号を付与したものを作成する。記載例は、別図第1による。

3.9 装置全体図 各装置別に構成機器がわかる図面を作成し、検索する機器がどのパーツブックの何ページに記載されているかを示す。記載例は、付図18による。

3.10 部品表

3.10.1 一般

- a) 図面と別用紙にする場合の用紙の大きさはA列4番とする。
- b) 予備品を有するものは、符号の前に※印を付け、余白に“※印は、予備品を有するものを示す。”と記入する。
- c) 組部品として予備品を供しているものは、符号により識別する。
- d) 様式は、付図9による。

なお、図面と同じ用紙に記載する場合は、これに準ずるものとする。

3.10.2 記入事項 記入事項は、次について当該図面に必要な事項を記載する。

- a) 符号 1から始まる一貫番号を原則とし、若い数字の順に記入する。
- b) 部品名 機器及び部品の名称は、原則として日本語名とし、日本語化された外国語は片仮名を使用して記入する。
- c) 材料 J I S, N D S等の材料規格記号で記入する。
- d) 規格・寸法 前c)項で引用した記号の規格番号を記入する。規格のないものは、最大外形寸法を記入する。
- e) 数量 1台分の数量を記入する。
- f) 質量 計算又は実測質量を記入する。
- g) 部品番号
 - 1) 機器及び部品には、それを表す部品番号を付与する。
 - 2) J I S, N D S等の規格品の部品は、その記号等で表示し、部品番号は()書きにて記載する。
 - 3) 部品番号は、同一メーカーの製造にかかる同一部品は必ず同一番号であり、異なった部品は、同一番号でないことが必須条件である。また、部品名は同じでも形状、寸法の異なるものに同一部品番号を付与しないこと。
 - 4) 表示に使用する文字は、数字、アルファベット、ハイフン(-)等の組合せとし、けた数は20けた以内とする。
- h) 材料試験片採取符号
 - i) 備考 自社製以外の部品はそのメーカーを記入する。また、別図がある場合には“○○ページの別図参照”又は“別図××××参照”と記入する。

3.11 図面 図面は、付図10によるほか次による。

- a) 構成部品等を全て網羅し、その形状、位置等を明確に記入する。
- b) 構成部品等には、部品表とその対照が容易なように符号を付ける。付ける順序は検索が容易なよ

うに順序よく表すものとする。ただし、同一機器図面が2枚以上にわたる場合で、各図に同一部品が記載されているときは、いずれかの図面に符号を付し、他は省略して差し支えない。

- c) 図面には、主要寸法、名称、要目、質量、機器識別番号、物品番号等必要な事項を記入する。
なお、寸法記入はJIS B 0001（機械製図）による。
- d) 製図は、現寸、縮尺等いずれの方法でもよい。また、写真が有効と判断される場合は写真印刷でもよい。
- e) 図面と部品表を別用紙にする場合は、図面左端にA列4番1枚の余白を設ける。
なお、部品表がA列4番の用紙1枚に表せる場合は、図面と同じ紙面に記載するのを原則とする。

3.12 要目表 要目表は、付図11による。

3.13 部品番号順索引及び共通部品表 部品番号順索引及び共通部品表は、付図12による。

3.14 取りまとめ表 取りまとめ表は、付図13によるほか次による。

- a) 諸管系統図等を掲載する場合は、表と図の対照が容易なように各々に符号を付ける。
- b) 別に図面を掲載する場合は、備考に“〇〇ページの別図参照”又は“別図××××参照”と記入する。

3.15 機器識別番号順一覧表 機器識別番号順一覧表は、付図14によるほか次による。

- a) 用紙の大きさは、A列4番とする。
- b) 番号順に集計する。

3.16 識別用紙 識別用紙は、付図15によるほか次による。

- a) 地色は、桃色とする。
- b) 用紙の大きさは、見出しを除いてA列4番とする。
- c) 文字の種類及び大きさは、ゴシック4号とする。

3.17 図書番号 別途指示する。

4 提出図書等

4.1 提出図書目録 付図16の様式により船体、機関、電気及び武器に区分し“補給本部行”と明記して、2部提出するものとする。また、出図予定表2部を官（補本）に提出するものとする。

なお、官給品の出図の要否については官（補本）と協議するものとする。

4.2 機器製造者一覧表 製造者はすべての機器について製造所が決定次第、速やかに、表1により機器製造所一覧表を船体、機関、電気及び武器に区分し“補給本部行”と明記して2部提出するものとする。

表1 機器製造者一覧表(記載例)

番号	機器名	主要目	数量	製造所	同所在地	納期	パーツブック		取扱説明書	予備品 要具表	備考
							機器図面	取扱説明 書の付図			
							○		○	○	
								○	○	○	

備考：1 パーツブック欄中○は機器図面をJ I S A列4番横長に縮刷して提出するか、取扱説明書の付図を提出するかを表示するものとする。

2 取扱説明書、予備品要具表欄中○印はいずれもこれらの図書を作成し提出するものを示す。

4.3 機器図 全機器にわたり官(補本)に2部提出し、予備審査を受けるものとする。

4.4 パーツブック原案 予備審査を得た機器図を所定のフォーマットに編集した陽画2部を官(官本)に提出し審査を受けるものとする。ただし、各表紙の材料は特に定めない。

4.5 原図 マイクロフィルム作成仕様書(MGP-S-00098-4 61.11.9)によるA6版35mm2段型マイクロフィルムジャケットのマスターフィルムとする。

4.6 その他

- a) 同型艦でパーツブックを合同作成するときは、艦名を併記すること。
- b) 承認用図書分類A, B, Cの分類記号に関係なく全ての承認図書について審査する。
- c) その他作成上の疑義については補本と調整すること。

5 検査

- a) 完成したパーツブックの各ページは正常な目視によってすべて解読でき、不鮮明なものであってはならない。また、官が指示した番号、記号及び修正箇所は正確に転記してあること。
- b) 本仕様書の指示に反しないこと。
- c) 構成、その他に欠陥がないこと。
- d) 調本検査官の確認を得るものとする。

付表1 取りまとめる機器等の範囲

各種弁	各種コック	防振管継手	防振ゴム
諸計器	各種温度計	各種こし器	各種照明灯
トラップ	各種電話器	保護亜鉛	

備考 主機等に付属しているものを除いて差し支えない。

付表2 電気部編集順序

	NO	装 置
水上艦	1	1次電源装置
	2	2次電源装置
	3	船体ぎ装装置
	4	機関ぎ装装置
	5	動力電熱装置
	6	通信・計測装置
	7	照明・信号装置
	8	区・分電箱, 電源転換器箱, 接続箱等
	9	特殊電源装置
	10	電気推進装置
	11	共通部品 (温度スイッチ, 圧力スイッチ等)
	12	その他 (蓄電池, 試験配電盤等)
潜水艦	1	発電機装置
	2	直流配電装置
	3	2次電源装置
	4	主電動機装置
	5	主蓄電池装置
	6	船体ぎ装装置
	7	機関ぎ装装置
	8	動力電熱装置
	9	通信・計測装置
	10	照明・信号装置
	11	区・分電箱, 電源転換器箱, 接続箱等
	12	共通部品 (温度スイッチ等)
	13	その他

- 備考：1 船体及び機関ぎ装装置は各装置毎にまとめて編集する。ただし、電動機はNo. 5 (潜水艦はNo. 8) にまとめて編集する。
- 2 共通部品図を使用する場合は、当該装置の目次に部品名等を記載するとともに、部品図に用途名を記載する。
- 3 No. 8 (潜水艦はNo. 11) に、区・分電箱等をまとめて編集する。

付表3 機関部分類図記載順序

機関名	分類番号	分類名
ガ ス タ ー ビ ン	A	ガスゼネレータ
	B	出力回転数制御装置
	C	出力タービン
	D	モジュール付属装置
	I	付属機器
	E	減速装置
	F	電装品
デ イ ー ゼ ル	A	機関本体関係
	B	内部主要機器
	C	動弁装置
	D	駆動装置
	E	潤滑油系統
	F	燃料系統
	G	清水冷却系統
	H	海水冷却系統
	I	冷却器
	J	吸・排気管系統
	K	過給器
	L	調速装置
	M	減速及び逆転装置
	N	起動装置
	O	操縦装置
P	計器	
Q	電装品	

付表3 機関部分類図記載順序(続き)

機関名	分類番号	分類名
蒸気タービン	A	機関本体関係
	B	内部主要機器
	C	動弁装置
	D	駆動装置
	E	潤滑油系統
	F	燃料系統
	G	清水冷却系統
	H	海水冷却系統
	I	冷却器

- 備考：1 分類名欄に該当しないものは表を準用する。
- 2 分類名に該当する機器がない場合には分類記号を繰りあげる。
- 3 機関以外で分類図を使用する場合には、その記載順序は官側と協議する。

付表4 解説記載項目

NO	項 目	備 考
1	目 的	パーツブックの目的を記載する。
2	構 成	区分に応じたパーツブックの構成を記載する。
3	索 引 要 領	当該分冊に応じた要領を記載する。
4	関 連 図 解 説 明	3項の図解説明
5	そ の 他	必要事項, 特記事項を記載する。

記 入 例

1 目 的

- a) 機器取扱者がある部品を必要とするとき, その部品の構成位置を手づるとして, 部品番号を探し出すのに, 必要な部品目録であり, 部品補給手順の第1段階の資料である。
- b) 機器の構成部品を明確にして維持修理に必要な部品の準備計画を立てる資料である。

2 構 成 本冊の本ページ以後の構成は, 要目表, 目次, 分類図, 機器図, 取りまとめ表, 部品番号順索引からなっている。

3 索引要領等

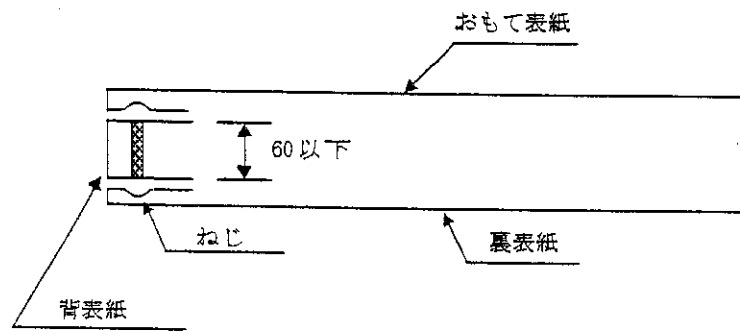
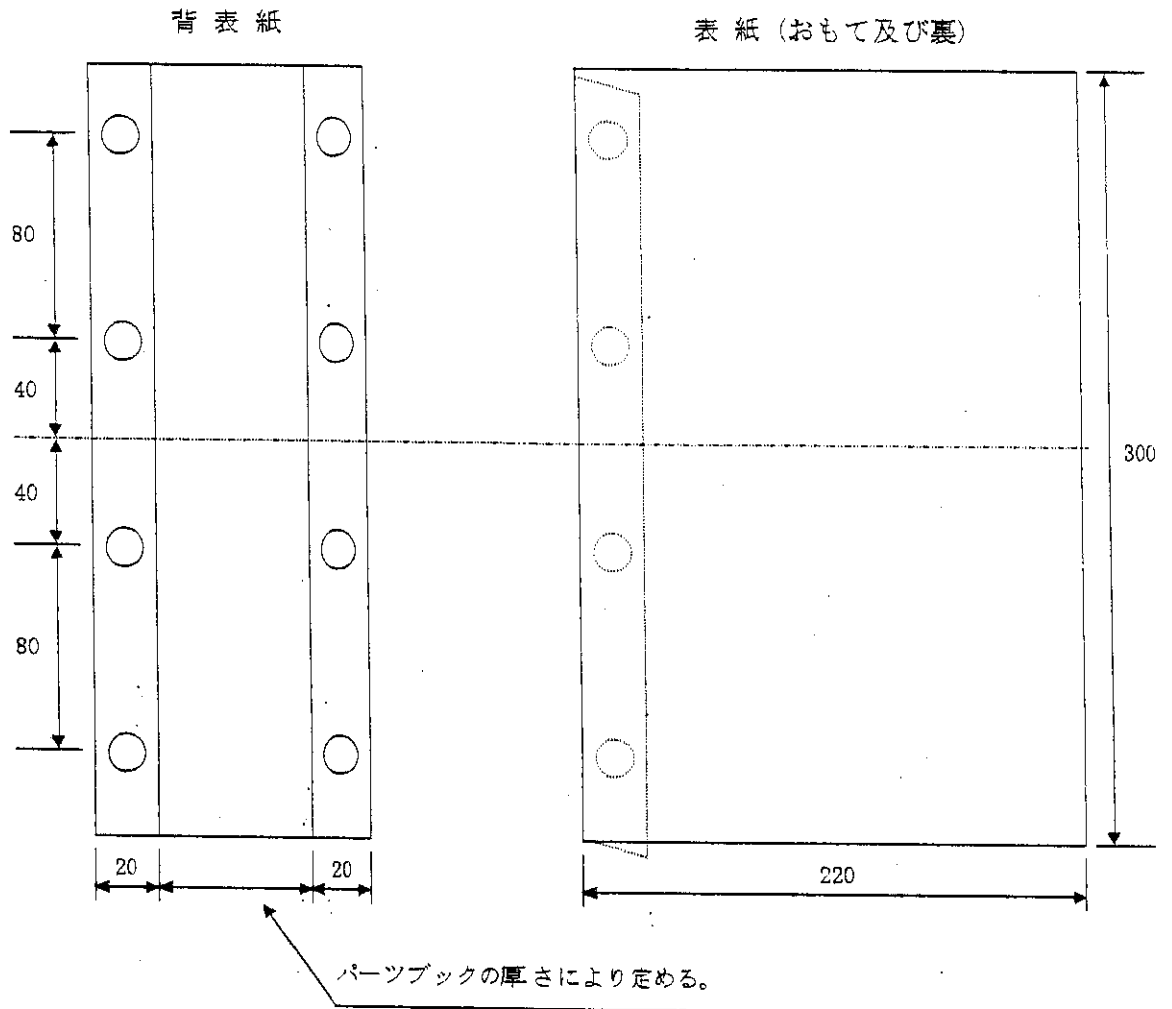
- a) 所要部品の構成位置のみ分かっている場合
分類図→分類番号→目次(分類名)→ページ→部品表及び部品図を見れば所要部品の部品番号が分かる。
- b) 部品番号が分かっている場合
部品番号順索引→品名主部→分類番号→品目番号→目次(分類名)→ページから部品表を見れば所要部品の構成位置が分かる。
- c) 倉庫から所要部品を入手する場合
部品番号から, 艦船補給品定数表(COSAL)の機器別部品定数表(APL)を見て物品番号を, 次に供用カードからロケーションを知り倉庫から所要部品が入手できる。

4 関連図解説明 例を附属書に示す。

5 その他

- a) 部品表に※印を付しているものは予備品であるが, 必ずしもCOSAL格納されているものではない。
- b) 目次の数量欄で()を付したものは, 親機器1台当りの数量を示す。

(単位：mm)

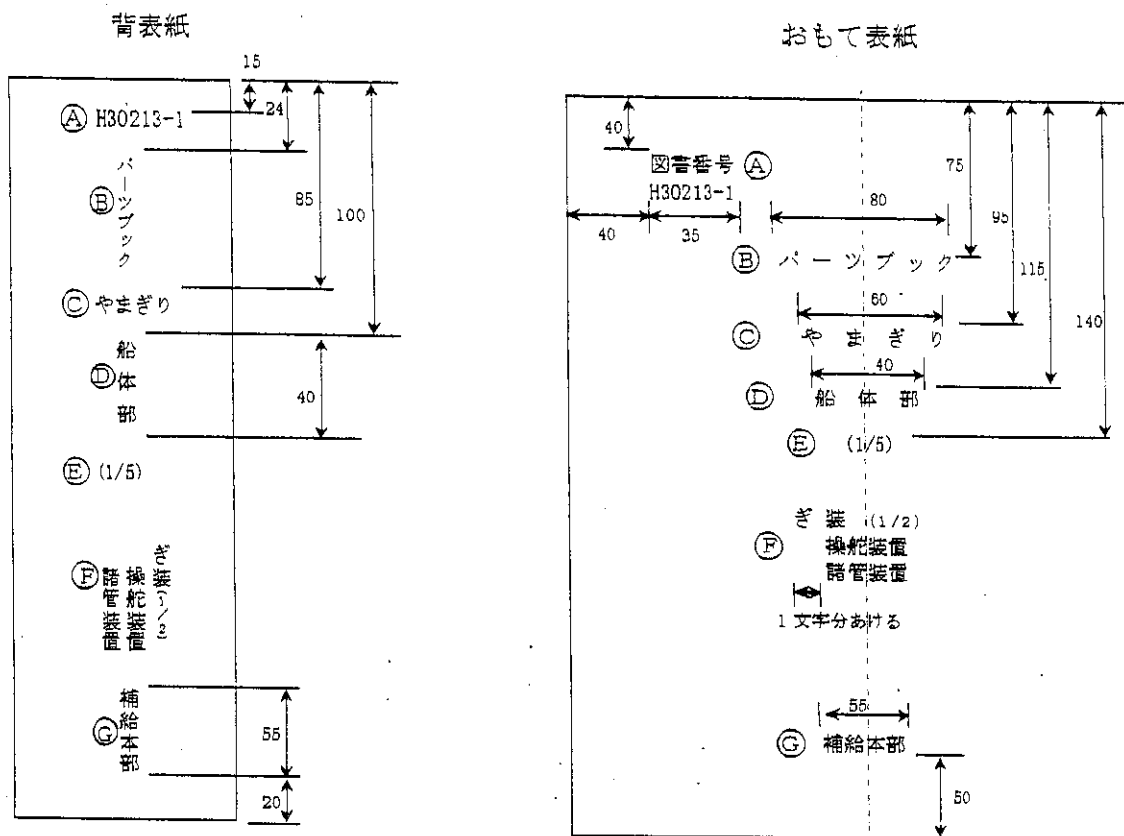


寸法は、概略を示す。

付図1 表紙 体 裁

(単位：mm)

1 記入位置



備考：寸法は概略を示す。なお、④の記入事項が機器型式等の場合には、寸法をおもて表紙は100mm、背表紙は50mmまでとして差し支えない。

2 記入事項，記入例等

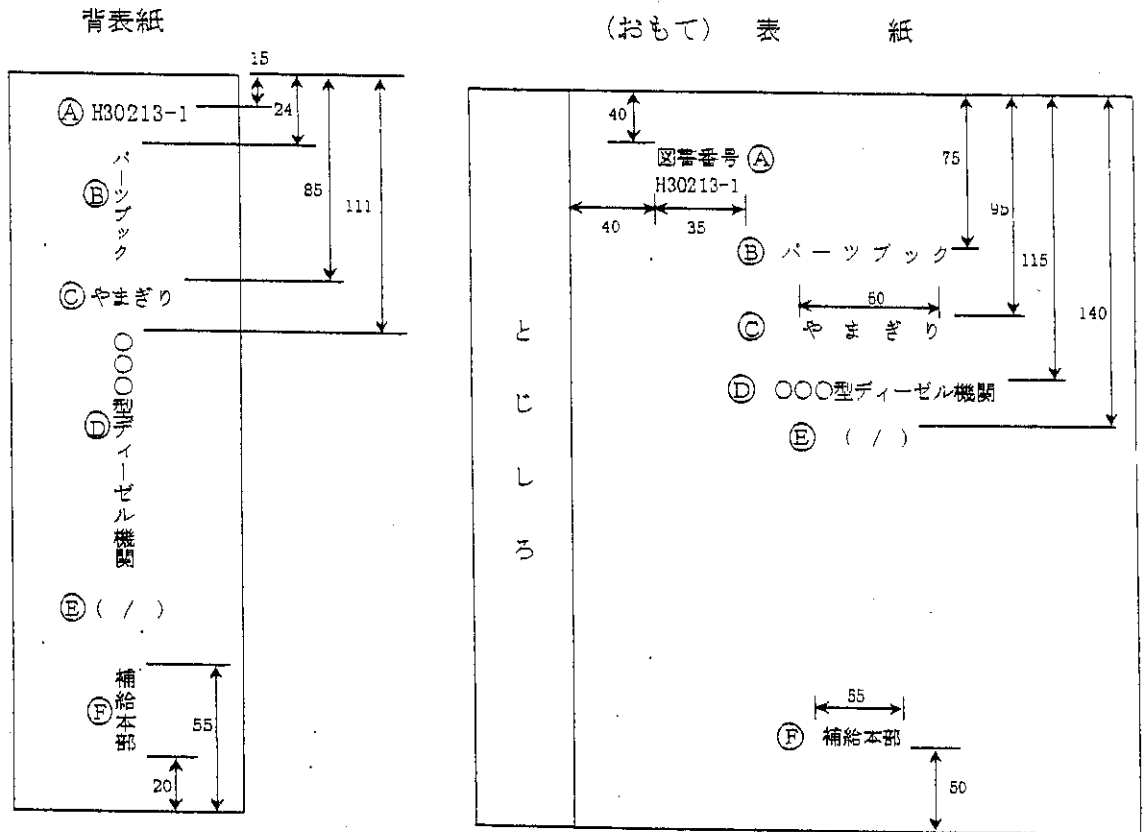
記入位置	記入事項	記入例	文字の大きさ	記 事
①	図書番号	図書番号 H30213-1	4号	番号は審査時、官で指示する。 背表紙には、番号のみ記入のこと。
②	パーツブック	(同左)	2号	
③	艦艇名	やまぎり	2号	2文字のときは記入幅を40mmとする。
④	区分	付図3	2号	
⑤	分冊番号	(1/5)	2号	2. 2項の区分において分冊する場合に付す。 (備考1) 分冊しない場合は記入の要はない。
⑥	パーツブックの内容	付図3	4号又は5号	
⑦	補給本部	(同左)	2号	

備考：1 各区分において分冊とする場合でも一頁分冊番号とする。(1/5 その1, その2とはしない。)

2 艦名の定まらないものは、建造番号とし 枠で囲む。

(単位：mm)

1 記入位置



備考：寸法は概略を示す。なお、(D)の記入事項が機器型式等の場合、寸法はおもて表紙は100mm、背表紙は50mmまでとして差し支えない。

2 記入事項、記入例等

備考2：分冊がある場合は、次のとおりとし、文字の大きさは5号とする。

記入位置	記入事項	記入例	文字の大きさ	記 事
(A)	図番番号	図番番号 H30213-1	4号	番号は審査時、言で指示する。 背表紙では、番号のみ記入すること。
(B)	パーツブック	(同左)	2号	
(C)	艦艇名	機名又は 製造番号	2号	2文字のときは記入幅を40mmとし、 機名名の定まらない場合は製造番号 とし、□枠で囲む。
(D)	機関名称	○○○型 ディーゼル 機関	2号	
(E)	分冊番号	(1/5)	2号	分冊のない場合には記入の要はない。
(F)	補給本部	(同左)	2号	

分冊番号	分類番号	内 容	図面番号
1 / 2	A	機 関 全 体	
	B	内 部 主 要 機 構	
	C	弁 及 び 動 弁 機 構	
2 / 2	I	冷 却 器	
	J	給 排 気 装 置	
	P	計 器	
	Q	電 装 品	
		部品番号順索引及び 共通部品表	

文字の種類は、すべてゴシックとする。

付図3 表紙記入要領 (B)

NO	区分	㊦ 記入例	㊧ 記入例	備考
1	船体部	船体部	ぎ装 (1/2) 換舵装置 諸管装置	中区分 } 小区分
2	機関部	機関部	補機 (1/2) 清水ポンプ 海水ポンプ	中区分 } 小区分
3	"	SM1A型ガスタービン機関	ガスゼネレータ 減速装置	㊦ 主機型式 ㊧ 機器名
4	"	4DQ50型ディーゼル機関	電装品	同上
5	電気部	電気部	SM-6型主電動機	㊧ 機器型式 分冊になる場合は NO.3による。
6	"	電気部	船体ぎ装装置 (1/2) 揚錨機 係船機	分冊になる場合は 機器名を記入 する。

備考：編集区分を分冊する場合中区分又は電気部は付表2の装置名と機器等の名称のみをEに記入し“除く〇〇〇”とは記入しない。

付図4 ㊦ 区分,㊧ パーツブックの内容記入例

1 一般の場合

区分	分冊番号	内 容	図 書 番 号
機 関 部	1/2	軸系及びプロペラ 補 機 (1/2) 水及び油ポンプ 空 気 機 械 造 水 装 置 舵 取 装 置 工 作 機 械	H20219-1
	2/2	補 機 (2/2) 前掲以外の補助機械 管弁コック等 雑	H20219-2

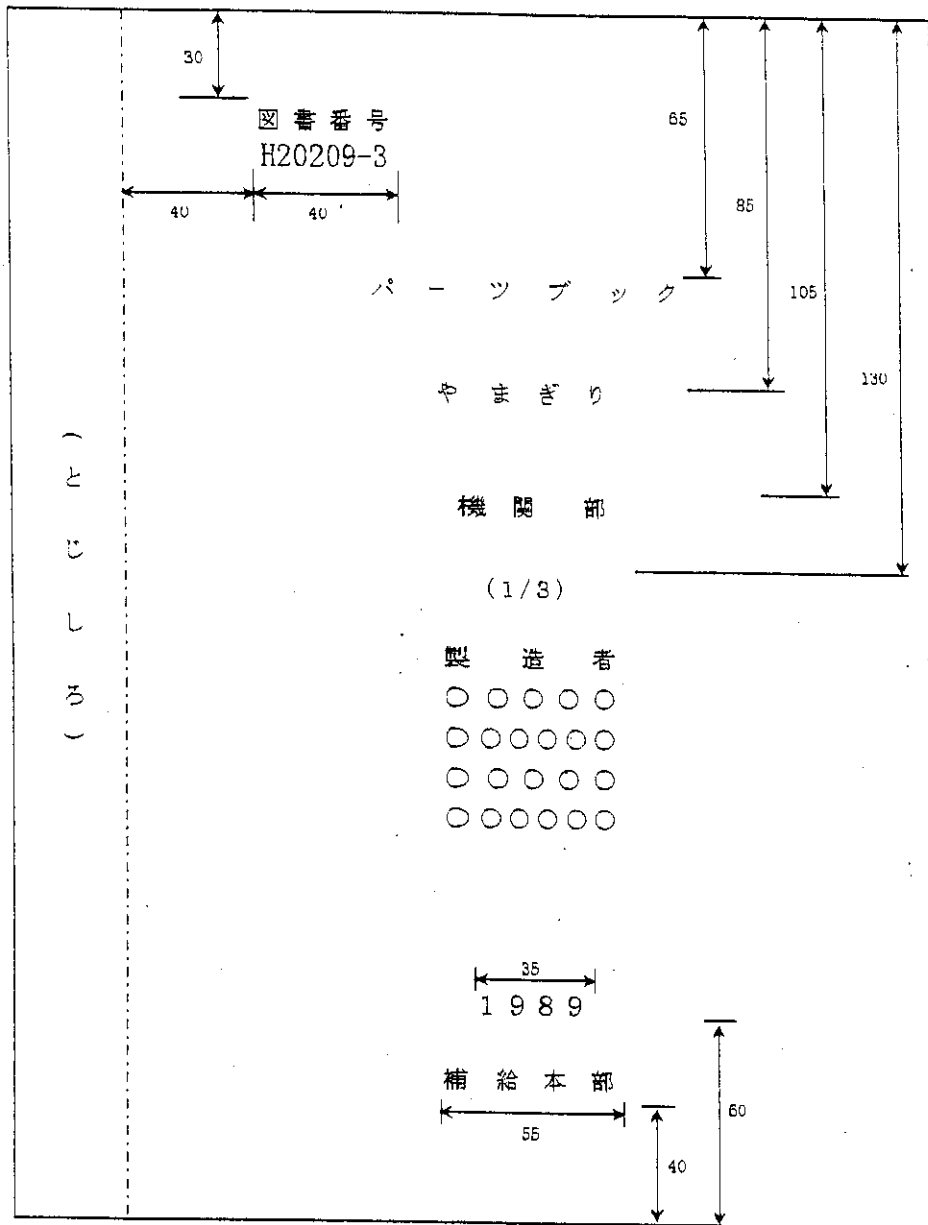
2 分類図を使用する場合

区 分	分冊番号	分類	内 容	図 書 番 号
S M 1 A 型 ター ビン 機 関	1/4	A	ガスゼネレータ	H2835-62 (A)
	2/4	B	出力回転数制御装置	H2835-62 (B)
		C	出力タービン	
		D	モジュール付属装置	
I	付 属 機 器			
3/4	E —	減 速 装 置 部 品 番 号 順 索 引 表	H2835-62 (C)	
4/4	—	電 装 品	H2835-62 (D)	

- 備考：1 紙の大きさ及び寸法は、特に定めない。
- 2 文字の大きさは5号活字を標準とする。
- 3 各項目に記載している内容は一例を示している。

(単位 : mm)

1 一般の場合

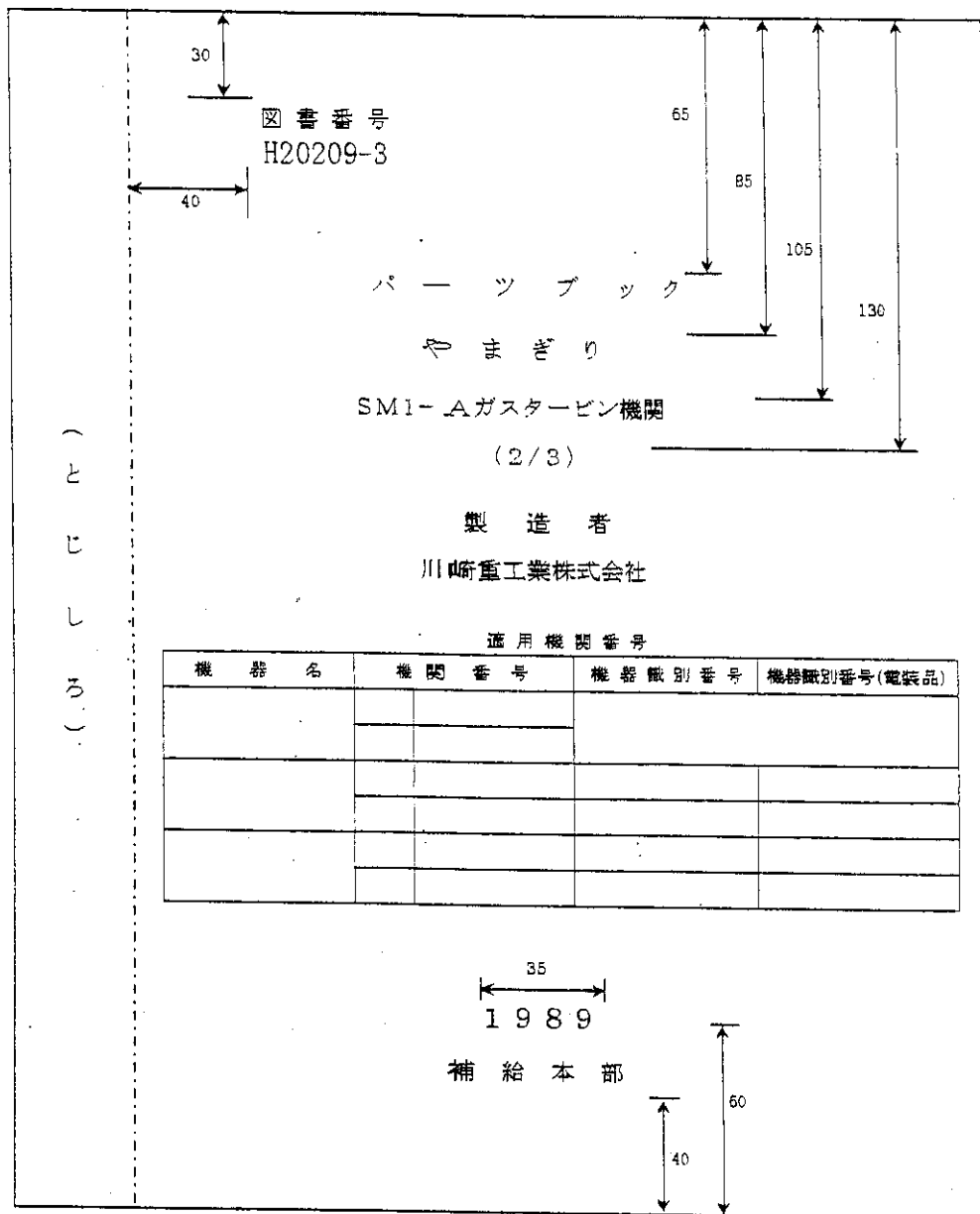


- 備考 : 1 表紙に記入する事項と同じものは, 表紙と同一とし, 他はゴシック 4号とする。
 2 記入事項の幅が, 記載していないものは表紙と同一とする。
 3 製造者の記入位置及び幅は中央余白に体裁よく, 50音順に記載する。
 4 製造年は, 西暦年とする。
 5 寸法は, 概略を示す。

付図6 扉記入要領

(単位：mm)

2 分類図を使用する場合



- 備考：1 表紙に記入する事項と同じものは、表紙と同一とし、製造者及び製造年はゴシック4号、他は5号活字とする。
- 2 記入事項の幅が記載していないものは、表紙と同一とする。
- 3 製造者及び適用機関番号の記入位置及び幅は、中央余白に体裁よく、記載するものとする。
- 4 製造年は、西暦年とする。
- 5 寸法は、概略を示す。

(単位：mm)

1 一般

目次								
(/)								
20	中区分	小区分	機器等の名称 (用途)	1艦当り 搭載数	製造者	部品番号 (完備品)	ページ	備考
	7	7	60	10	35	25	10	25
								10

目次						
(/)						
10~20	機器等の名称 (用途)	1艦当り 搭載数	製造者	部品番号 (完備品)	ページ	備考
	60	15	35	25	10	25
						10

- 備考：1 寸法は、概略を示す。
- 2 文字の大きさ及び種類は、標題を4号，その他を5号の明朝体とする。
- 3 “1艦当り搭載数”の記入要領は，親機器については搭載数量，子機器については親機器1に対する数量とし，“()”書きとする。

付図8 目次様式及び記入要領

(単位：mm)

3 分類図を使用するものに適用

		(1 / 5)
		30
		目次
		40
40	分類図	
	機器全体図	1
	ガスゼネレータ全体配置図	2
	ガスゼネレータ組立断面図	3
(分類番号) (名称)		
45	A	ガスゼネレータ
	A 1	エンジンアッセンブリ 4
	A 1-1	コンプレッサケース 8
	A 1-2	ドレンパイプユニット 9
	A 2	ドライブアッセンブリ 10
	A 2-1	インターナルギヤーボックス 11
	B	出力回転類制御装置 25
		部品番号順索引 200
(部品番号順索引及び共通部品表)		

- 備考：1 寸法は、概略を示す。
 2 文字の大きさ及び種類は、標題を4号，その他を5号の明朝体とする。
 3 グループ別記載順序は、付図8. 1による。

ガスタービン機関

目 次

頁

分類 図 (/) 機関全体図

分類 図 (/) 全体配置図

分類 図 (/) 組立断面図

.

.

.

.

分類 図 (/) 減速装置全体図

分類 図 (/) 減速装置全体配置図

.

.

.

分類 図 (/) 電装品配置図

分類索引

分類番号	分類名
A	ガスゼネレータ
A-○	ベーシックエンジン完備品
A-○-○	圧縮機ケーシングぎ装品
	.
	.
	.
B	出力回転数制御装置
B-○	コントロールスタンド
B-○-○	ボックス完備品
	.
	.

C	出力タービン
C-〇	排気ポリウト
C-〇-〇	排気ポリウト
	.
	.
	.
D	モジュール付属装置
D-〇	台板及び防振支持装置
D-〇-〇	台板
	.
	.
	.
E	減速装置
E-〇	附着部品
E-〇-〇	機側計器類
	.
	.
	.
I	付属機器
I-〇	たわみ継手カバー
I-〇-〇	たわみ継手カバー
	.
	.
	.
部品番号順索引

ディーゼル機関

	目	次	頁
分類図 (/)	機関全体図	
分類図 (/)	全体配置図	
分類図 (/)	組立断面図	
	.		
	.		
	.		
分類図 (/)	減速装置全体図	
分類図 (/)	減速装置全体配置図	
	.		
	.		
分類図 (/)	電装品配置図	

分類索引

分類番号	分類名
A	機関本体
A〇-〇	シリンダふた
A〇-〇	インジケータ弁及び安全弁
	.
	.
	.
B	内部主要機構
B〇-〇	シリンダライナ
B〇-〇	連接棒
	.
	.
	.
C	動弁装置
〇〇-〇	吸気弁及び排気弁
〇〇-〇	動弁装置
	.
	.
	.
D	駆動装置
D〇-〇	前部歯車装置
D〇-〇	後部歯車装置

付図8.1 グループ別記載順序(続き)

E	潤滑油系統
E〇-〇	潤滑油ポンプ
E〇-〇	潤滑油管装置
F	燃料油系統
F〇-〇	燃料噴射弁
F〇-〇	燃料噴射ポンプ
G	清水冷却系統
G〇-〇	清水ポンプ
G〇-〇	自動温度調整弁
H	海水冷却系統
HO-〇	海水ポンプ
HO-〇	冷却清, 海水系統
I	冷却器
I〇-〇	清水冷却器
I〇-〇	潤滑油冷却器
J	吸, 排気管系統
J〇-〇	吸気管
J〇-〇	排気管
K	過給機
K〇-〇	排気ターボ過給機

付図8. 1 グループ別記載順序(続き)

L	調整装置
LO-○	調速機
LO-○	燃料噴射ポンプ調整装置
	.
	.
M	減速装置
MO-○	ケーシング
MO-○	台 板
	.
	.
N	起動装置
NO-○	起動空気管制弁
NO-○	起動弁
	.
	.
O	操縦装置
OO-○	機側操縦装置
OO-○	遠隔操縦装置
	.
	.
P	計器板
PO-○	計器板
PO-○	計 器
	.
	.
Q	電装品
QO-○	回転計検出器
QO-○	圧カスイッチ
	.
	.
部品番号順索引

(単位 : mm)

1 一般の場合

次は一例を示しており、必要に応じて記載項目を追加又は罫線を入れる。

(ページ数)

部品表 (/)

※印は、予備品を有するものを示す。

符号	部品番号	部品名	材料, 規格寸法	数量	質量	備考

Dimensions: 12, 12, 30, 40, 10

2 分類図を使用する場合 (例)

次は一例を示しており、必要に応じて記載項目を追加又は罫線を入れる。

(ページ数)

部品表 (/)

※印は、予備品を有するものを示す。

符号	部品番号	品名及び記述	数量

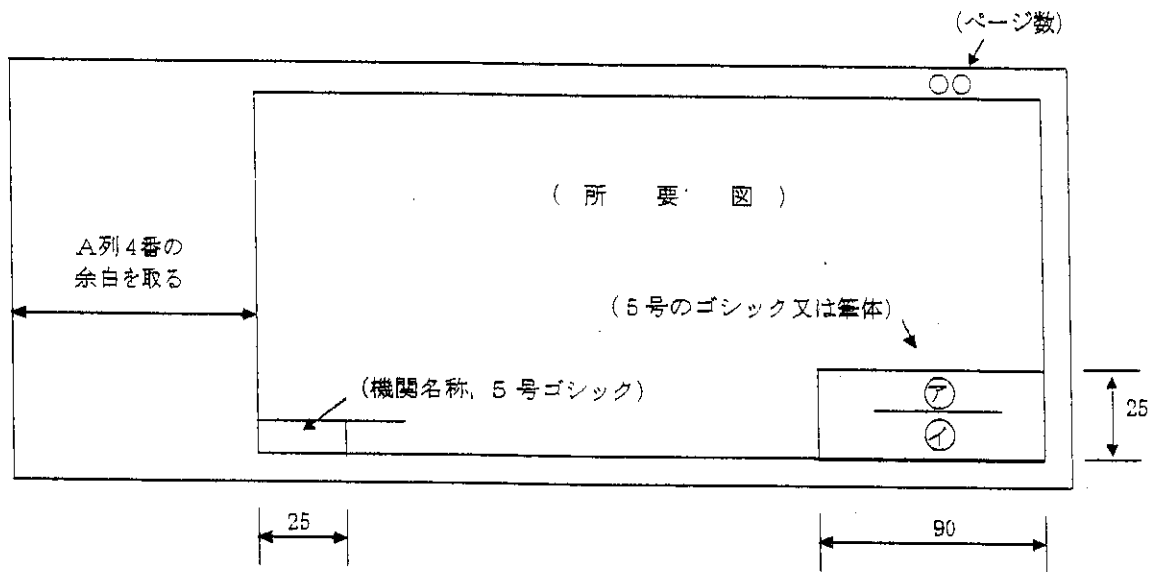
Dimensions: 12, 12, 30, 40, 10

- 備考 : 1 寸法は、概略を示す。なお、左端余白は大きいのが望ましい。
- 2 表右肩に部品表のページ数を入れる。
- 3 予備品を有するものは、符号の前に※印をつけ、“※印は、予備品を有するものを示す。”と記入する。
- 4 2枚目以降は、標題“部品表”を記入しない。
- 5 組部品として予備品を供しているものは、符号により識別する。

(例) ※

10	MHI-100R	モジュールユニット	1
10-1	HR100	コンデンサ	3
10-2	MR200	抵抗	5

(単位：mm)



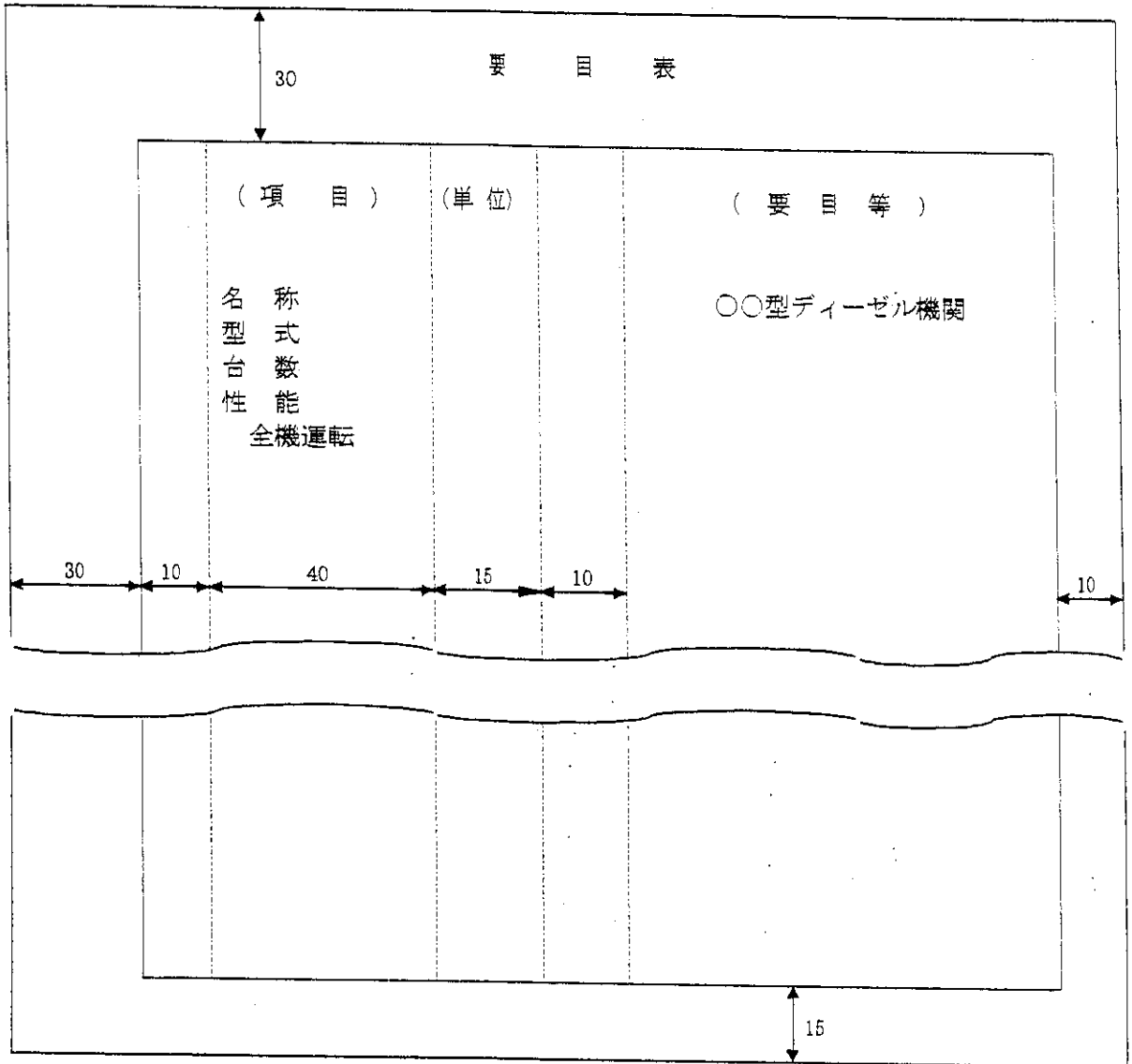
- 備考：1 上記図面は、分類図を使用する場合を示す。なお、分類図は ㊦ の枠に“分類図”
 ㊧ に図面名称（例 横断面図）を記入する。
 2 上記以外の機器図においては、㊦、㊧の枠は次による。

物品番号	㊦	(部品名)	㊦	7
部品番号 (完備品)		(装置名)	(図面番号)	
機器識別番号			(製造者名)	16
70		90		

- a) 部品レベルの図面には ㊦ 欄を設けるものとする。
 b) 機器図と部品表を同じページに記載する場合は、左端A列4番余白はとらない。
 c) 機器図がA列4番1枚の場合はこれに準ずる。
- 3 指定なき文字は、9ポイント明朝体とする。
 4 ページ数は、枠外右肩とする。

付図10 図面様式及び記入要領

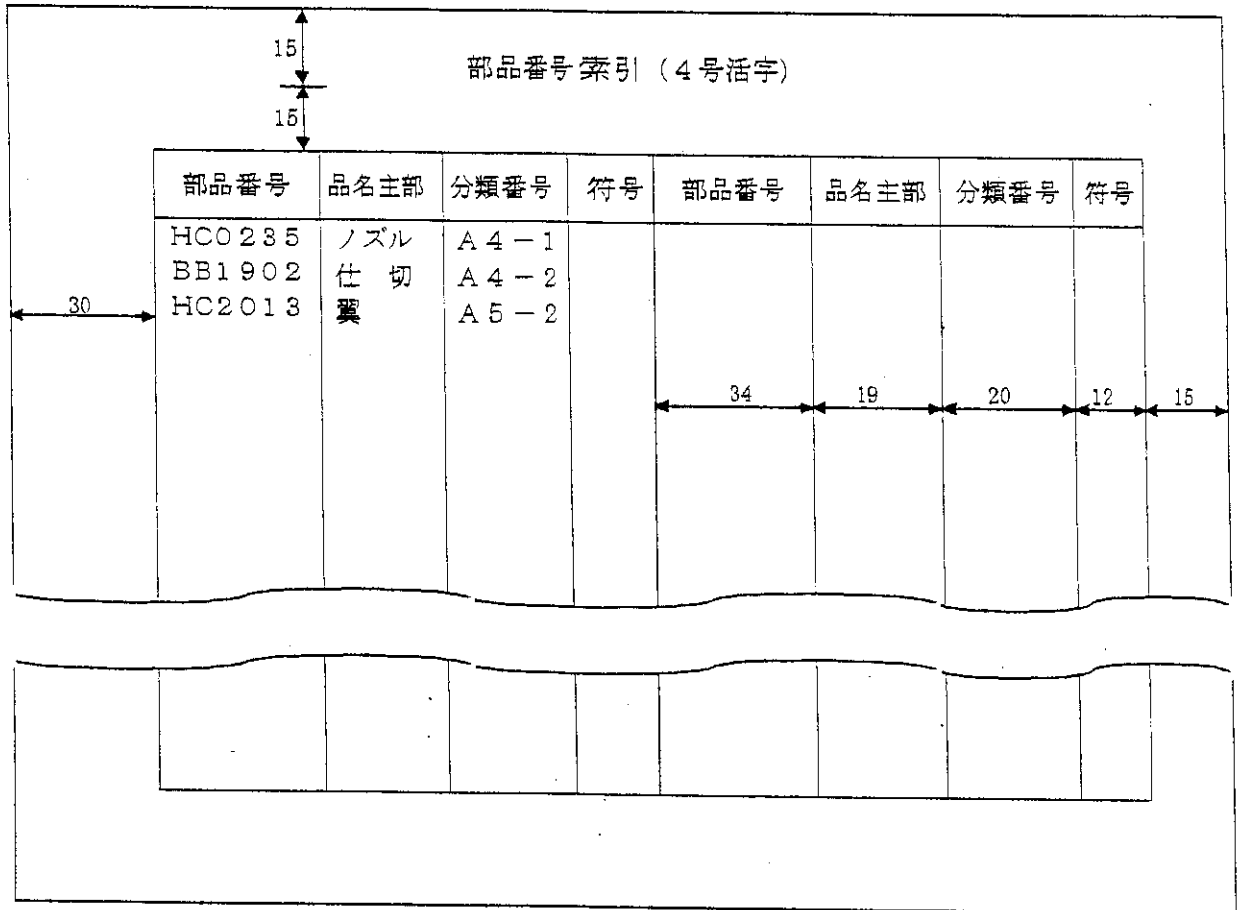
(単位：mm)



- 備考：1 寸法は，概略を示す。
- 2 文字の大きさ及び種類は，標題を4号，その他を5号の明朝体とする。
- 3 本表は，主機械，原動機等に適用する。
- 4 項目は，必要な要目を記載し，艦名，建造番号等は記載しない。
- 5 点線で示したものは，記入の必要はない。

付図11 要目表様式及び記入要領

(単位：mm)



部品番号類索引及び共通部品

部品番号	品名主部	分類番号	符号	共通部品表 (○印は共通)					
				52DD	53DD	54DD	55DD	56DD	58DDG
12356-23451	パッキン	A3-1	21		○		○		
12356-23452	パッキン	A3-1	21	○		○			
12356-31234		C5-5	20				○	○	

備考：1 機器の使用状態により適宜上表が下表のいずれかによるものとする。

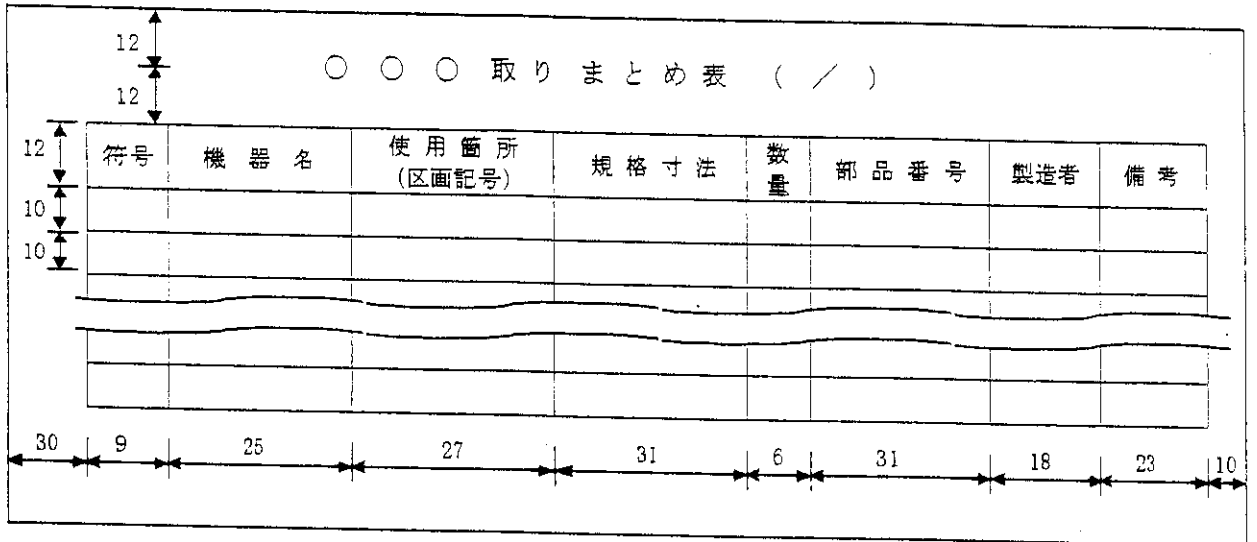
2 部品番号の記載順序は次による。

a) アルファベット順による。

b) 数字順による。

付図12 部品番号順索引及び共通部品表様式及び記入要領

(単位：mm)



(記入要領例)

弁, コック, こし器等取りまとめ表

管系統名		燃料管系統					
符号	品名	使用箇所 (区画記号)	規格寸法	数量	部品番号 (完備品)	製造者	備考
1	5K-φ25 ねじ締玉形弁	1号巡航D/E燃料 流量計入口弁	NDS F 7372B	1	130025	嵯内山製作所	IHV-101
2	5K-φ25 ねじ締玉形弁	1号巡航D/E燃料 流量計出口弁	NDS F 7372B	1	130025	嵯内山製作所	IHV-102
3	5K-φ25 ねじ締玉形弁	1号巡航D/E燃料 流量計ベース弁	NDS F 7372B	1	130025	嵯内山製作所	IHV-103
4	5K-φ20 ねじ締玉形弁	1号補助ボイラ 燃料供給弁	NDS F 7372B	1	130020	嵯内山製作所	IHV-105
5	5K-φ20 ねじ締玉形弁	2号補助ボイラ 燃料供給弁	NDS F 7372B	1	130020	嵯内山製作所	IHV-106
6	5K-φ15 ねじ締逆止玉形弁	1号補助ボイラ燃料 戻り弁 (逆止)	NDS F 7382B	1	057015	嵯内山製作所	IHV-107
7	5K-φ15 ねじ締逆止玉形弁	1号補助ボイラ燃料 戻り弁 (逆止)	NDS F 7382B	1	057015	嵯内山製作所	IHV-108

- 備考：1 寸法は、概略を示す。
 2 文字の大きさ及び種類は、標題を4号、その他を5号の明朝体とする。
 3 符号は、一貫番号を付す。
 4 機器名は、50音順に記載する。
 5 防振管継手は機器名毎にまとめ、別機器になると1段空欄を設ける。
 6 防振ゴムは部品番号毎にまとめ、小計を記載し、1段空欄を設ける。
 7 部品番号はアルファベット、数字の順に記載する。

付図13 取りまとめ表様式及び記入要領

機器識別番号順一覧表

機器識別番号	機 器 名	機器識別番号	機 器 名

Dimensions: 30 (height of title), 30 (width of first column), 10 (width of last column), 45 (width of first data column), 40 (width of second data column), 45 (width of third data column), 40 (width of fourth data column).

備考：1 寸法は，概略を示す。

2 文字の大きさ及び種類は，標題を4号，その他を5号の明朝体とする。

付図14 機器識別番号順一覧表様式

(単位：mm)

The diagram shows a rectangular label template with a notch on the right side. The notch is 10 mm wide and 30 mm high. The text '製造者名' (Manufacturer Name) is written vertically inside the notch. Below the diagram are instructions for using the label.

製造者名

30

10

備考：1 識別用紙には，見出しを設けるものとする。
見出し位置は用紙の上縁より順次に下方に移し下縁に達した場合には改めて上縁から始める。この場合，製本時見出しが重なって見にくくならぬよう注意する。

2 見出しには，次の要領で識別文字を記入する。

- a) 製造者名は略称（別途指示する。）を記入する。
- b) 分類図を使用する場合は，分類番号を記入する。
- c) 取りまとめ表は“取りまとめ表”と記入する。
- d) 部品番号順索引は“部品番号順索引”を記入する。

付図15 識別用紙様式及び記入要領

区分：

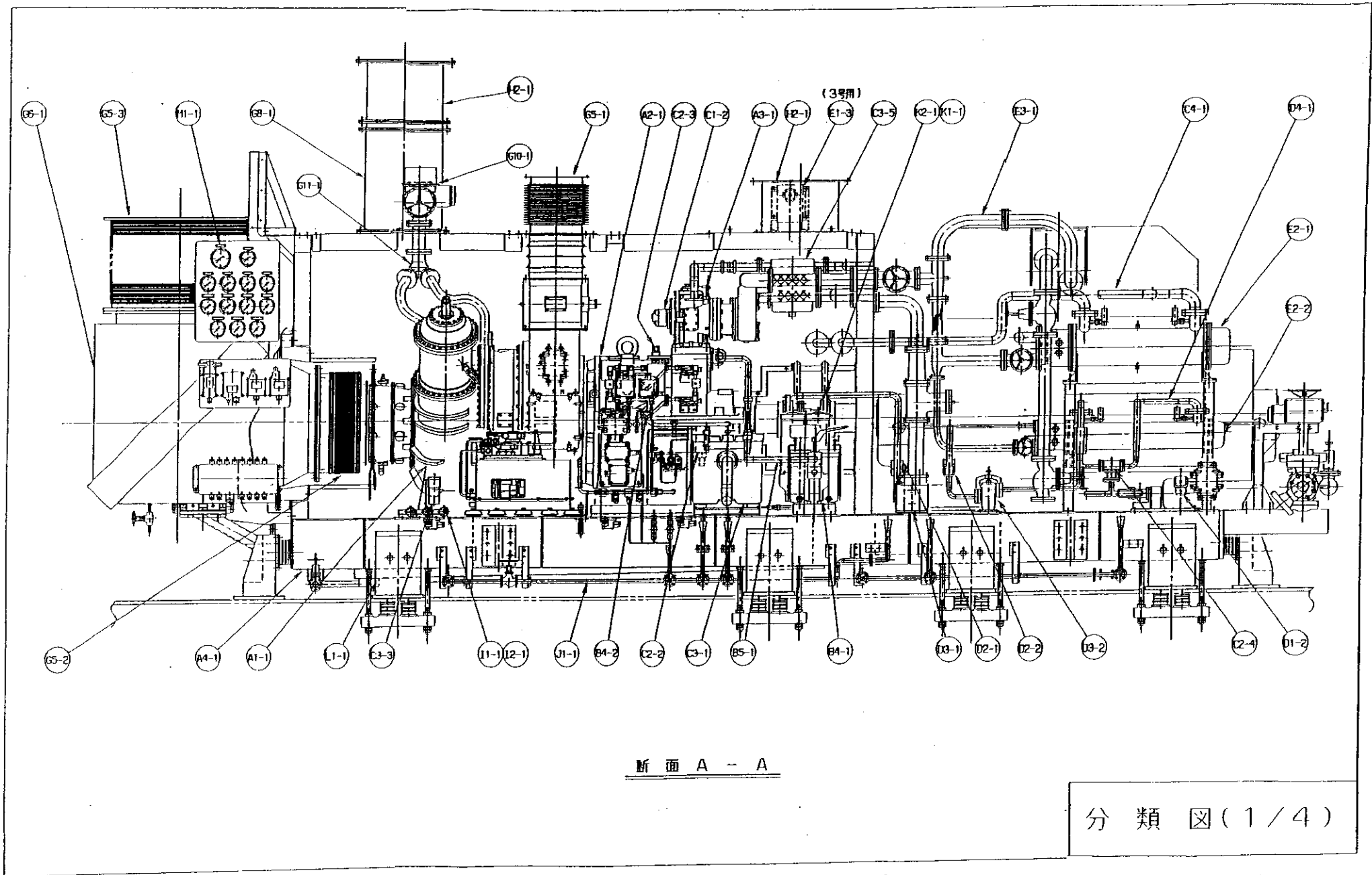
整理 番号	防衛庁 図面番号	図面名称	分類 記号	製造所	本 図				1 回 改 正				2 回 改 正				3 回 改 正				備 考
					部 数	図 面	受 付 月 日	箱 番	部 数	図 面	受 付 月 日	箱 番	部 数	図 面	受 付 月 日	箱 番	部 数	図 面	受 付 月 日	箱 番	
						予備品	返却月日			予備品	返却月日			予備品	返却月日			予備品	返却月日		

272

備考：1 寸法は、概略を示す。

2 A列4番 横長とする。

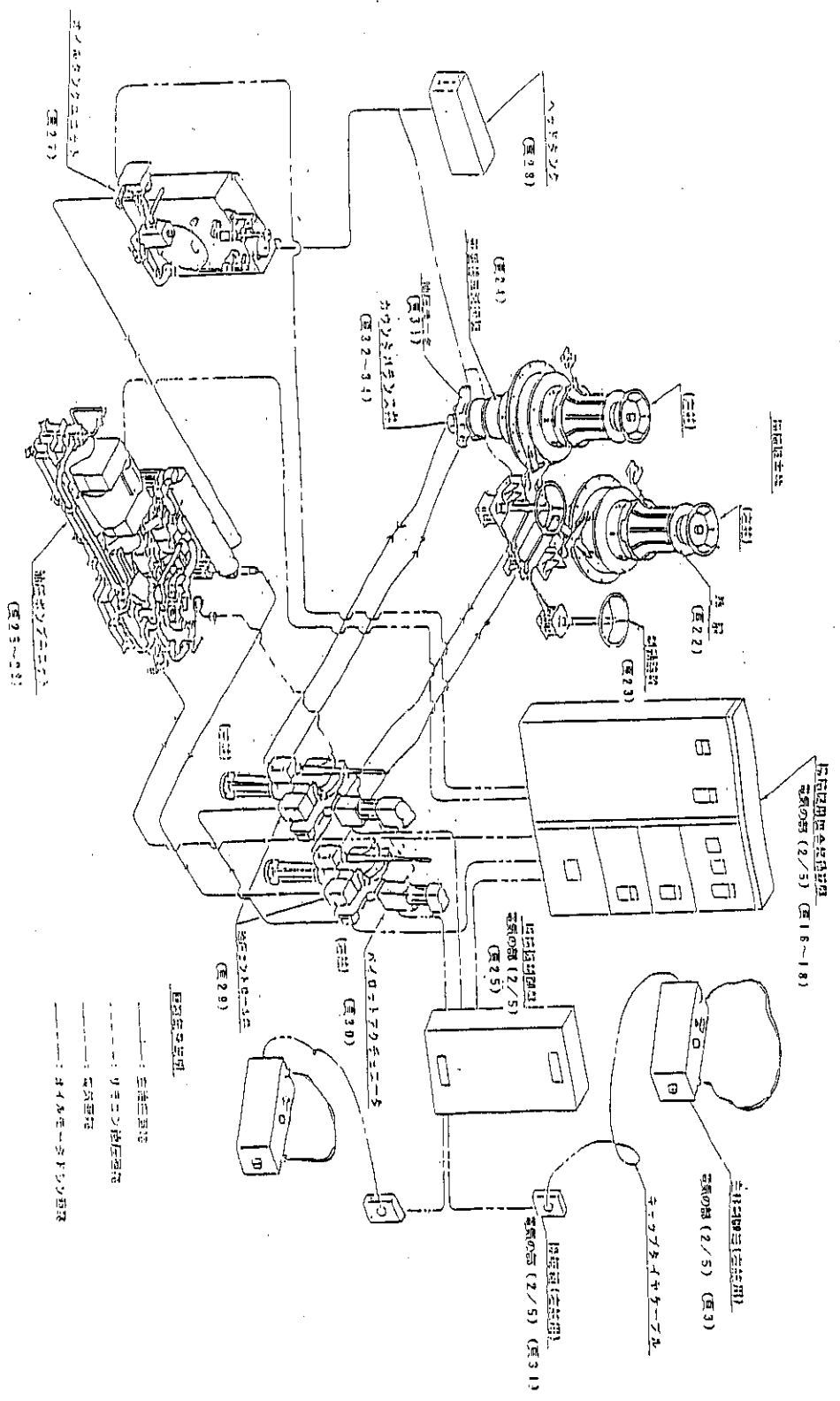
付図16 提出図書目録様式



断面 A - A

分類圖(1/4)

圖17 分類圖(例)



備考：図が複雑で各所、図等が記入しづらい場合は分断面と同様に符号、部品名等の一覽表として作成すること

制御系統機器設置全体図

付図 18 装置全体図 (例)

附属書 パーツブック使用法

1. 目的

- a) 機器取扱者が、ある部品を必要とするとき、その部品の構成位置を手づるとして、部品番号を探し出すのに、必要な技術補給資料であり、部品補給手順の第1段階として使用するものである。
- b) 機器の構成部品を明確にして、機器の維持修理に必要な部品の準備計画を立てる資料である。

2. 構成 本パーツブックの構成は、次のとおりである。目次、部品表、機器図（部品図）及び取りまとめ表。

3. 索引要領等

a) 索引要領

1) 所要部品の機器が分かっている場合

目次（機器等の名称）→ページ→部品表及び機器図（部品図）から所要部品の部品番号が分かる。

2) 部品番号が分かっている場合

総索引表（MCRL）→物品番号→総合部品定数表（SNSL）→機器識別番号（CID No）→機器索引機器識別番号順→機器名称→目次（機器等の名称）→ページ→部品表及び機器図（部品図）から所要部品の構成位置が分かる。

b) 所要部品入手要領

交換しようとする部品の部品番号が不明のとき、まずパーツブックから部品番号、機器識別番号を検索し、機器別部品定数表（APL）から物品番号を索引する。次に供用カードよりロケーションを知り、倉庫から所要部品が入手できる。

c) 目次の記入要領

1) 区分 “重量区分及び内訳” に区分している。

2) 機器等の名称 親機器名、構成機器、構成部品について記載している。

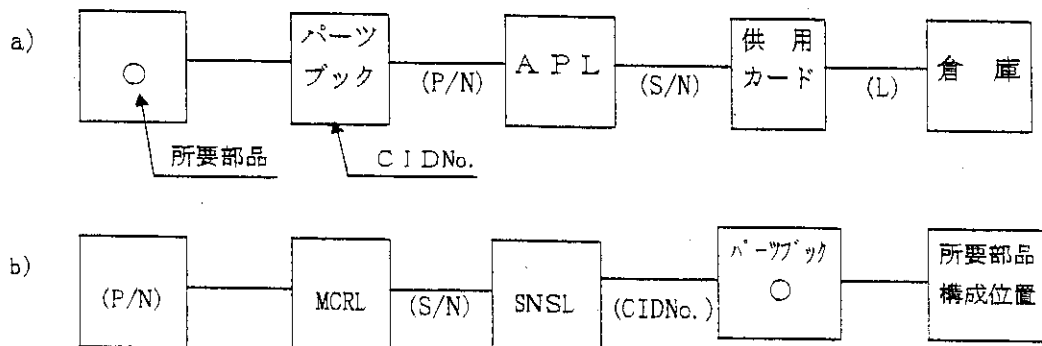
3) 1 艦当り搭載数（ ）を付したものは、親機器 1 台当りの構成機器又は構成部品の数量を示す。

4) 製造者（ ）を付したものは、親機器製造者が他の製造者より調達したものを示す。

5) ページ ページ欄に※印を付したものは、他の分冊に記載されているものを示す。

4. 関連図説明

P/N 部品番号	S/N 物品番号	L ロケーション
CIDNo 機器識別番号	MCRL 総索引表	APL 機器別部品定数表
		SNSL 総合部品定数表



5. その他

- a) 部品表に※印を付しているものは予備品であるが、必ずしもCOSAL格納されているものではない。
- b) 改訂記録は搭載されている機器の改造、撤去、新設されたとき、その変更内容等をパーツブックに記述すると共に改訂記録に記録する。